

GAP導入推進マニュアル（概要版）

GAP（農業生産工程管理）とは

農産物生産において気を付けなければいけないことを整理して農場の作業ルールを定め、そのとおりにできたかどうかを自分でチェックする取組です。

ルールどおりにできなかった場合は、その原因をよく分析して、次の栽培に活かします。

GAPとは、農業生産活動を行う上で、必要な関係法令に則して定められている点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動

（農林水産省「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン」より）

GAPの取組手順

①計画（Plan）

農作業の計画を立て、チェックリスト（点検項目）を定めます。

②実践（Do）

チェックリストを確認し、農作業を行い、記録します。

③点検・評価（Check）

記録を点検し、改善できる部分を見つけます。

④見直し・改善（Action）

改善すべき点を見直し、次回の作付に役立てます。

GAPに取り組む意義

経営上のリスクの回避

- ① 食品安全に関わるリスク
- ② 環境保全に関わるリスク
- ③ 労働安全に関わるリスク

遵守すべきルールの再認識

農業生産活動に関係する多くの法令や指針の漏れを防止

農業経営の改善

今まで気づかなかった農業経営の問題点を把握することが可能

メリット

- ・品質向上による農産物の信頼確保
- ・苦情・クレームの減少
⇒ 安定的な販路確保

- ・生産技術の改善や労働の効率化
⇒ 全従業員が経営改善に参加

- ・生産履歴の分析により農産物の安全はもとより栽培技術も改善

- ・義務づけのないリスク管理にも積極的に取り組むなど、意識が変化

GAPの種類

GAPの種類	GAP基準作成主体	特徴
地域GAP （内部点検GAP）	JA連合会 JA作物生産部会 卸業者など	・地域の実情に応じた内容なので実践しやすい
量販店GAP （第三者点検GAP）	イオン 日生協など	・基準を満たせば当該量販店との取引につながる ・量販店を通じて、消費者等に対する農産物の安全性の説明が可能
JGAP （第三者点検GAP）	日本GAP協会	・高度な農業管理が実現 ・消費者等に対する農産物の安全性の客観的な説明が可能 ・第三者機関の認証が必要（認証の取得や更新手続きに費用負担あり）
グローバルGAP （第三者点検GAP）	フードプラス ※ドイツに本部を置く非営利組織（大手小売業者などがメンバー）	・高度な農業管理が実現 ・消費者等に対する農産物の安全性の客観的な説明が可能 ・第三者機関の認証が必要（認証の取得や更新手続きに費用負担あり） ・輸出に有利

GAP導入までのプロセスとステップアップ

準備: GAP推進チームの編成(集団内の合意形成等)

ステップ1: 生産工程の確認と危害要因の検討

ステップ2: 危害要因の特定と対策の検討

ステップ3: 農場のルールづくりとチェックリストの作成

ステップ4: あるべき農業生産を実践、記録、評価し、点検する

ステップ5: 改善策を検討し、農場のルールに反映
農水省ガイドラインに則したGAPへのステップアップを検討

リスク(危害要因)
を認識せず、チェッ
クリストに記録する
だけではGAPとは
言えない!

ステップ3に
戻り、
繰り返す

GAPの普及方向

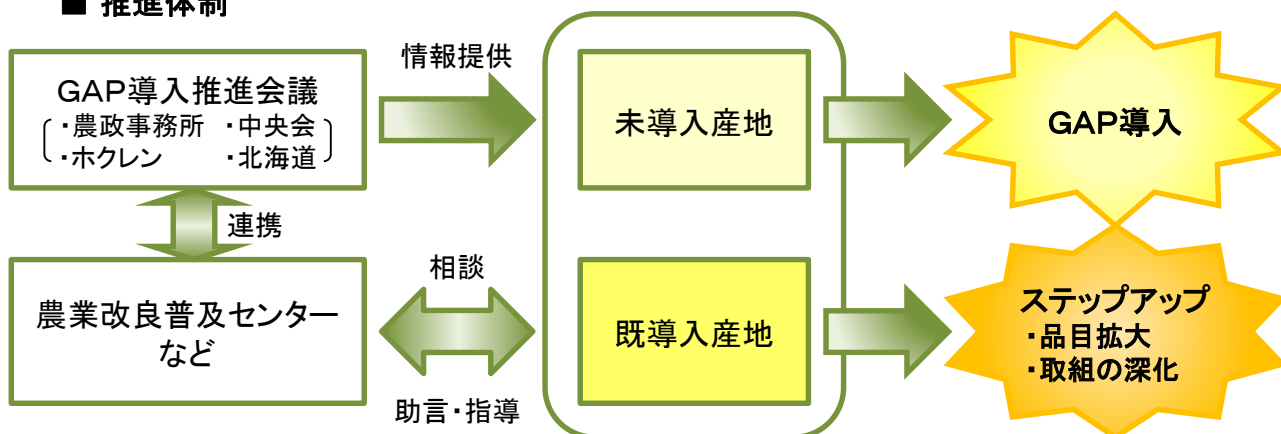
推進方針: 産地の意向を踏まえて、産地が主体となった取組を支援

目標: すべての主要な産地への普及・定着

北海道では大ロット
の取引が主体

農協等の生産部会など、
集団を主体としたGAPの取組が効果的

■ 推進体制



北海道農業生産工程管理手法(GAP)導入推進会議
(北海道農政事務所、JA北海道中央会、ホクレン、北海道農政部)